



横浜市歴史博物館 テーマ展

# ハマっ子、三浦半島をゆく

## — 江戸と弥生 海と横浜 —

会 期	平成 29 年 6 月 21 日 (水) ~ 7 月 17 日 (月祝)
開館時間	午前 9 時~午後 5 時 (券売は 4 時 30 分まで)
観 覧 料	一般 200 円、高校生・大学生 100 円、小学生・中学生 100 円 (常設展は別)
休 館 日	月曜日 (7 月 17 日は開館)
主 催	横浜市歴史博物館
共 催	横浜市教育委員会
協 力	神奈川県立歴史博物館
後 援	朝日新聞横浜総局/神奈川新聞社/産経新聞社横浜支局/東京新聞横浜支局/ 日本経済新聞社横浜支局/毎日新聞横浜支局/読売新聞東京本社横浜支局/ NHK横浜放送局/TVK/FMヨコハマ

三浦半島は古くから海と深く関わっています。江戸時代の浦賀には「海の関所」浦賀奉行所が置かれ、海岸沿いの村々では漁業が盛んでした。弥生時代にさかのぼれば、海岸に沿って点在する洞穴遺跡から、弥生人と海の密接なつながりを示す資料が発見されています。

展示では、弥生時代と江戸時代の三浦半島の歴史・文化を横浜との関係も意識しながら紹介します。

### 【展示構成・主な資料】

パート 1 江戸時代 : 三浦の地図/鎌倉と逗子/金沢の野島/横須賀の実力者・永嶋家/  
浦賀-海の関所/異国船への備え/三崎-魚を獲る、運ぶ



#### 「相模国絵図」 (当館蔵)

相模国全体を描いた「国絵図」のうち三浦半島部分。三方を海に囲まれて海上交通が発達し、山がちな三浦の地理が一目でわかる。

## パート2 弥生時代：さまざまな漁具/運ばれる貝輪/骨を焼いて占う



間口洞穴遺跡出土漁具（神奈川県立博物館蔵）

※神奈川県指定重要文化財

三浦半島の洞穴遺跡からは、漁具や装身具であるさまざまな骨格貝製品が出土し、遠隔地との漁民の交流があったのではないかとされている。

### 【関連企画】

#### 講座「海からみる江戸時代の三浦半島」

講師：神谷大介氏（東海大学非常勤講師）

日時：7月1日（土）15:30～17:00

会場：当館講堂

参加費：500円

定員：150名 当日受付先着順

#### 講座「三浦半島の洞穴遺跡」

講師：高橋健（当館学芸員）

日時：7月9日（日）14:00～15:30

会場：当館研修室

参加費：500円

定員：40名 当日受付先着順

### 展示解説

日時：7月1日（土）、12日（水） ①10:30～ ②14:00～

会場：企画展示室

参加費：無料 当日受付先着順

### 図録

「江戸時代の三浦半島をゆく」 500円（予価）

A4版 フルカラー 42頁

お問い合わせ先：横浜市歴史博物館 副館長 井上攻 Tel.045-912-7777

\*画像データをご要望の場合は 久保（広報）へご連絡ください。